

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	(人間の尊厳と自立) 介護倫理	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	「尊厳」とは何か、「自立・自律」とは何かを、身体拘束、介護虐待、リスクマネジメント等の現状や捉え方について、理解してもらう。				
担当講師	氏名 中島 誠吾	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
実務経験	介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士の資格を有し、病院、特養での現場経験を踏まえて講義を行う。				
時間数	30 時間	単位数	2 単位	学習時期	学年 1 年生 期 前期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	施設、居宅を問わず、介護サービス全般において、いかなる場面でも利用者の尊厳守り、利用者主体のサービスを提供できる介護福祉士像を確立する。				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・個人作業、グループワークを入れ、互いの考えを理解しながら学習する。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 				

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	福祉とは何か	2
2	社会福祉と幸福 [演習]	2
3	人間の尊厳と人権	2
4	福祉理念 (福祉と倫理) [演習]	2
5	自立の概念 (自律と自立)	2
6	福祉の支援と専門職 [演習]	2
7	介護福祉士とは	2
8	介護福祉士に求められる人間理解	2
9	社会福祉が目指すもの [演習]	2
10	利用者を理解し支える専門性 [演習]	2
11	介護を受ける人の気持ちを理解する	2
12	介護における尊厳の保持と自立支援	2
13	事例検討① 「老人福祉施設における倫理」	2
14	事例検討② 「在宅福祉サービスにおける倫理」	2
15	修了試験	2

成績評価の方法・基準 (試験やレポートの評価基準等) 出席状況と試験結果により評価
--

使用教材・参考文献 第1巻「人間の理解」中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版 第1巻「人間の理解」株式会社 メヂカルフレンド社 社会福祉小六法 その他資料
--

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	(人間関係とコミュニケーション) 社会福祉援助技術	授業方法	■ 講義	□ 実技	□ 実習
授業概要	個別援助技術及び集団援助技術・地域援助技術に加え、ケアマネジメント、チームワークについて行う。				
担当講師	氏名 小方 優子	■	実務経験を有する教員		
実務経験	社会福祉士・精神保健福祉士、介護支援専門員等の資格を有し、病院で医療ソーシャルワーカーとして勤務され、地域医療連携などに携わってきたことなどをもとに講義を行う				
時間数	30 時間	単位数	2 単位	学習時期	学年 1 年生 期 後期
科目区分	■ 専門	□ 一般	履修区分	■ 必修	□ 選択 □ 自由選択
到達目標	実践に活かせる知識の修得をはかる。				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターによる講義を中心とし、視覚的効果の高い授業を行う。 ・教科書と資料を使用しての授業を行う。 				

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	人間の理解 人間形成のプロセス	2
2	人間の理解 認知世界	2
3	人間の理解 ストレス	2
4	人間の理解 援助対象者のとらえ方	2
5	<u>人間関係の形成とコミュニケーションの基礎</u>	2
6	発達と人間関係	2
7	個別援助技術の理解 ①構造と機能 ②基本原理・原則	2
8	個別援助技術の理解 ③展開過程 ④記録とスーパービジョン	2
9	集団援助技術の基礎的理解 ①構造と機能 ②基本原理	2
10	集団援助技術の基礎的理解 ③展開過程	2
11	地域援助技術 ①意義と機能 ②地域福祉援助と介護専門職	2
12	<u>コミュニケーションの基礎</u>	2
13	コミュニケーションの技法	2
14	コミュニケーションの技法 ①書き言葉 ②機械	2
15	修了試験	2

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準等)

出席状況と試験結果・授業態度により評価

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版
第1巻「人間の理解」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学科名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科目名	(人間関係とコミュニケーション) チームマネジメント	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	介護実践をマネジメントするために必要な①組織の運営と管理②人財の育成や活用、それらに必要な③リーダーシップとフォロワーシップ等チームで働く力を養うための知識とコミュニケーション能力を養う。				
担当講師	氏名 松本 安広	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
実務経験	介護老人保健施設での経験、介護福祉士会での活動を踏まえ、現場におけるチームの在り方やフォローの指導を行う				
時間数	30 時間	単位数	2 単位	学習時期	学年 2 年生 期 後期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	福祉サービスにおける組織の機能や構造について理解できる チームでケアを展開するために必要な様々な実践力について理解できる。 チームワークとは何かを理解し、そこで必要となるリーダーとフォロワーの役割について説明できる。				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 				

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	介護サービスの特性と求められるマネジメント。	2
2	チームマネジメントの基本	2
3	ケアを展開するために必要なチーム	2
4	実践力を高めるための <u>チームマネジメント</u>	2
5	チームワークに必要なリーダーとフォロワー	2
6	介護職としてのキャリアデザイン	2
7	キャリア開発のしくみ	2
8	キャリア開発と自己研鑽	2
9	福祉サービスと事業所組織	2
10	事業所組織の機能と役割①	2
11	事業所組織の機能と役割②	2
12	事業所組織の運営	2
13	地域におけるマネジメント	2
14	業務課題の発見と解決の方法①	2
15	修了試験	2

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準等) 出席状況と試験結果により評価

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版 第1巻「人間の理解」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	(社会の理解) 生活と福祉	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	社会福祉の歴史、運営実施体制、社会保障及び関連制度の概要 介護保険法・自立支援法・個人情報保護法・成年後見人制度の概要				
担当講師	氏名 佐藤 尊之	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
実務経験	社会福祉士として、特養やケアハウス等での勤務経験があり、介護現場の実際、社会福祉の制度について講義を行う				
時 間 数	30 時間	単位数	2 単位	学習時期	学年 1 年生 期 後期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	社会福祉の全体を把握し、自立した生活に必要な課題は何であるか、考えられるようになる。				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、スライドによる講義を中心とする。 ・プロジェクター、DVD を用いて視覚的効果の高い授業を行う。 				

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	<u>社会と生活のしくみ</u> ①生活の構造と家族	2
2	<u>社会と生活のしくみ</u> ②地域・社会の組織	2
3	ライフスタイルの変化・社会構造の変化	2
4	家族の機能と役割	2
5	社会福祉法制の体系 1	2
6	社会福祉法制の体系 2	2
7	社会福祉の行政	2
8	社会福祉の財政	2
9	社会福祉の運営組織	2
10	福祉サービスの提供と利用	2
11	地域・地域社会、地域社会の変化 地域における生活支援、地域包括ケア	2
12	地域福祉の発展	2
13	<u>地域共生社会の実現に向けた制度や施策</u> (背景・理念・取り組み)	2
14	<u>地域共生社会の実現に向けた制度や施策</u>	2
15	修了試験	2

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準等)
出席状況と試験結果により評価

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版
第2巻 「社会の理解」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	(社会の理解) 社会保障制度	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	○社会福祉の歴史、運営実施体制、社会保障及び関連制度の概要 ○介護保険法・自立支援法・個人情報保護法・成年後見人制度の概要				
担当講師	氏名 佐藤 尊之	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
実務経験	社会福祉士として、特養やケアハウス等での勤務経験があり、介護現場の実際、社会福祉の制度について講義を行う				
時 間 数	30 時間	単位数	2 単位	学習時期	学年 2 年生 期 前期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	社会福祉の全体を把握し、自立した生活に必要な課題は何であるか、考えられるようになる。				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、スライドによる講義を中心とする。 ・プロジェクター、DVD を用いて視覚的効果の高い授業を行う。 				

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	社会保障の基本的な考え方	2
2	日本の <u>社会保障制度</u> の発達	2
3	<u>社会保障制度</u> （関連制度の概要） 所得保障制度	2
4	<u>社会保障制度</u> （関連制度の概要） 医療保険制度、介護保険制度	2
5	<u>社会保障制度</u> （関連制度の概要） 雇用・就労制度の概要 ⑤その他の社会保障関連制度	2
6	<u>高齢者福祉と介護保険制度</u> （高齢者の保健福祉の動向、法律）	2
7	<u>高齢者福祉と介護保険制度</u> 「背景と目的、しくみ」	2
8	<u>高齢者福祉と介護保険制度</u> 「組織・団体の役割 動向」	2
9	<u>障害者福祉と障害者保健福祉制度</u> （障害者の保健福祉の動向）	2
10	<u>障害者福祉と障害者保健福祉制度</u> 「背景と目的、しくみ」	2
11	<u>障害者福祉と障害者保健福祉制度</u> （障害者総合支援制度）	2
12	<u>介護実践に関連する諸制度</u> （権利擁護、個人情報保護法、成年後見人制度）	2
13	<u>介護実践に関連する諸制度</u> （保健医療に関する制度）	2
14	<u>介護実践に関連する諸制度</u> （貧困と生活困窮に関する制度、地域生活を支援する制度）	2
15	修了試験	2

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準等) 出席状況と試験結果により評価

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版 第2巻 「社会の理解」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学科名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科目名	介護保険制度	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	○介護保険制度の導入の経緯から、基礎的な概要、サービスの内容などを詳しく説明する。 ○福祉の各法について、介護保険制度との具体的な関連を考えながら指導していく。				
担当講師	氏名 菅沼 真弓	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
実務経験	護福祉士として、通所施設等で介護経験、介護支援専門員として特養での勤務を活かし、介護現場で必要な講義を行う。				
時間数	30 時間	単位数	2 単位	学習時期	学年 1 年生 期 前期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	介護保険の内容と、それに付帯する福祉制度について理解をする。 「介護事務管理士検定」の合格を目指し、介護福祉士として活躍できる幅を広げる。				
準備学習の内容	・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする				
授業の進め方	・教科書による講義、演習を取り入れた実践形式の授業を行う。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。				

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	介護実践に関連する諸制度 介護保険導入の背景	2
2	介護実践に関連する諸制度（介護保険制度）認定からサービスを受けるまでの流れと仕組み	2
3	介護実践に関連する諸制度（介護保険制度）各サービスの説明と理解①	2
4	介護実践に関連する諸制度（介護保険制度）各サービスの説明と理解②	2
5	介護実践に関連する諸制度（介護保険制度）サービスを受けるための仕組み①	2
6	介護実践に関連する諸制度（介護保険制度）サービスを受けるための仕組み②	2
7	介護実践に関連する諸制度（介護保険制度）行政の役割	2
8	介護実践に関連する諸制度（介護保険制度）財源・保険料について	2
9	ケアプランの概要 介護保険制度の中でのケアプランの役割	2
10	ケアプランの概要 ケアプランの実際①	2
11	ケアプランの概要 ケアプランの実際②（事例演習）	2
12	介護報酬請求事務について	2
13	介護保険制度全般のまとめ	2
14	介護保険制度全般のまとめ	2
15	試験	2

成績評価の方法・基準

（試験やレポートの評価基準等）

出席状況、授業態度、福祉事務管理技能検定の結果等により評価

使用教材・参考文献

ソラスト

「介護保険のしくみとサービス」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程							
科 目 名	パソコン実習	授業方法	<input type="checkbox"/> 講義	<input checked="" type="checkbox"/> 演習	<input type="checkbox"/> 実習					
授業概要	○ビジネス文書を作成する上で必要な各種技術を学習する。 ○表計算ソフトを利用した表の作成とその応用、また様々な関数や、各種グラフ等の作成ができるよう学習する。									
担当講師	氏名	田中 理恵子	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員						
実務経験	民間企業で一般事務としての勤務経験をもとにパソコンの基本操作等を指導する									
時 間 数	90 時間	単位数	6 単位	学習時期	学年	1 年生	期	後期		
						2 年生		前・後期		
科目区分	<input type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択				
到達目標	○表が入ったビジネス文書を作成することができる。 ○表計算ソフトを利用して表やグラフを作成することができる。 ○表計算ソフトのデータベース機能を利用して簡単なデータ管理を行うことができる。 ○パワーポイントの基礎を理解し、課題に沿って発表会用資料を作成、発表できる。 ○MOS 検定の合格を目指す									
準備学習の内容	・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする									
授業の進め方	・パソコン操作の実践により WORD、EXCEL の方法を身に付け、パワーポイントでの資料作成、発表を行う ・練習問題の演習。									

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	WindowsXP の操作実習	2
2	入力練習ソフトウェアを利用したタイピング練習（ローマ字のみの入力）	2
3	入力練習ソフトウェアを利用したタイピング練習（数字・記号の入力を含む）	2
4		2
5	ワープロソフト上での文字入力練習（ひらがなの入力）	2
6	ワープロソフト上での文字入力練習（漢字変換）	2
7	文章の入力と保存・印刷実習	2
8	Word の操作実習（フォントの活用・基本的な書式設定）	2
9	Word の操作実習（段組・書式設定の応用）	2
10	Word の操作実習（罫線機能の利用）	2
11	初歩的なビジネス文書の作成、表を含んだビジネス文書の作成実習	2
12	イラスト入りビジネス文書の作成、差込み印刷を利用した文書の作成実習	2
13	パワーポイントの基本	2
14	パワーポイントを使用して各自発表資料作成	2
15	パワーポイントを使用して各自発表資料作成	2
16	パワーポイントを使用して各自発表資料作成	2
17	パワーポイントを使用して各自発表資料作成	2
18	パワーポイントを使用して各自発表資料作成	2
19	パワーポイントを使用して各自発表会	2
20	パワーポイントを使用して各自発表会	2
21	Excel の操作実習（表の書式設定、罫線機能を使った表の作成）	2

22	Excel の操作実習 (印刷のための書式設定)、計算式を利用した表の作成	2
23	各種関数の活用 (SUM・AVERAGE・MAX・MIN 関数を利用した表の作成)	2
24	各種関数の活用 (COUNT・IF 関数を利用した表の作成)	2
25	各種関数の活用 (COOKUP・各種財務関数を利用した表の作成)	2
26	2 3. ワークシート間のデータ結合	2
27	2 4. グラフの作成	2
28	データベースの基礎、データベースの機能を利用したワークシートの作成	2
29	ワークシート作成実習 (各種関数の復習)	2
30	ワークシート作成実習 (グラフの復習)	2
31	Word と Excel の活用 (ファイリングのリンク・ワードアートの利用)	2
32	IF 関数Ⅰ、IF 関数Ⅱ	2
33	IF 関数Ⅲ・AND 関数・OR 関数	2
34	VLOOKUP 関数Ⅰ、VLOOKUP 関数Ⅱ	2
35	HLOOKUP 関数Ⅰ、HLOOKUP 関数Ⅱ	2
36	複数のシート (作業グループ)	2
37	複数の表から参照する	2
38	MATCH 関数	2
39	複合グラフ	2
40	COUNTIF 関数・SUMIF 関数	2
41	ピボットテーブル・グラフ	2
42	WEEKDAY 関数	2
43	MOS 検定対策	2
44	MOS 検定対策	2
45	修了試験 (MOS 検定)	2

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準等)

出席状況と授業態度、試験結果により評価

使用教材・参考文献

実教出版 「30 時間でマスター Word&Excel 2016」

実教出版 「30 時間でマスター プレゼンテーション+Power Point 2016」

FOM 出版 よくわかるマスターMOS Excel 2016

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	福祉事務	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	○介護保険制度の導入の経緯から、基礎的な概要、サービスの内容などを詳しく説明する。 ○福祉の各法について、介護保険制度との具体的な関連を考えながら指導していく。 ○介護保険制度について、具体的な内容の理解と実際のレセプト作成について指導する。				
担当講師	氏名 立川 百合恵	<input type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
実務経験					
時 間 数	30 時間	単位数	2 単位	学習時期	学年 1 年生 期 後期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	介護保険の内容と、それに付帯する福祉制度について理解をする。 「介護事務管理士検定」への合格を目指し、介護福祉士として活躍できる幅を広げる。				
準備学習の内容	・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする				
授業の進め方	・練習問題、過去問を使用しての演習を中心とした授業を行う。				

授業進行計画表			
回数	授業内容		時間数
1	介護報酬レセプト作成	介護報酬の計算方法	2
2	介護報酬レセプト作成	介護報酬の計算方法	2
3	介護報酬レセプト作成	介護報酬の計算方法	2
4	介護報酬レセプト作成	介護報酬の計算方法	2
5	「介護事務管理士検定」対策講座	実際に問題を解き、解説をする	2
6	「介護事務管理士検定」対策講座	実際に問題を解き、解説をする	2
7	「介護事務管理士検定」対策講座	実際に問題を解き、解説をする	2
8	「介護事務管理士検定」対策講座	実際に問題を解き、解説をする	2
9	「介護事務管理士検定」対策講座	実際に問題を解き、解説をする	2
10	「介護事務管理士検定」対策講座	実際に問題を解き、解説をする	2
11	「介護事務管理士検定」対策講座	実際に問題を解き、解説をする	2
12	「介護事務管理士検定」対策講座	実際に問題を解き、解説をする	2
13	「介護事務管理士検定」対策講座	実際に問題を解き、解説をする	2
14	「介護事務管理士検定」対策講座	実際に問題を解き、解説をする	2
15	試験		2

成績評価の方法・基準 (試験やレポートの評価基準等) 出席状況、授業態度、介護事務管理士検定の結果等により評価
--

使用教材・参考文献 ソラスト 「介護報酬の算定の仕方」 「資料ブック」
--

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程			
科 目 名	介護の基本	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習	
授業概要	介護福祉士として、基本的知識・技術・態度はどのようなものか考えながら学習していく。					
担当講師	氏名 森 廣子 菅沼 真弓 松本 安広	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員			
実務経験	介護福祉士として、重症心身障害児施設や高齢者施設、精神障害者グループホームなど多種多様な現場の長い経験をもとに講義を行う。					
時 間 数	150 時間	単位数	10 単位	学習時期	学年	1 年生 期 2 年生 前期 後期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	「介護とは」何なのか、さまざまな面から捉え、自分なりの介護観を持つことができるようになる。					
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 					
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、資料、板書による講義やグループワークを中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 					

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	<u>介護福祉の基本となる理念</u> 介護の成り立ち	2
2	<u>介護福祉の基本となる理念</u> 「介護」の見方・考え方の変化	2
3	<u>介護福祉の基本となる理念</u> 介護の専門性	2
4	生活とは何か	2
5	生活にとって大切な要素	2
6	社会的課題としての介護問題	2
7	「その人らしさ」と「生活ニーズ」	2
8	生活障害の理解	2
9	利用者にあった生活の場	2
10	<u>介護福祉士の役割と機能</u> 「くつろぎの場」「安心できる場」の整備	2
11	<u>介護福祉士の役割と機能</u> 介護職が行う生活支援	2
12	<u>介護福祉士の倫理</u> 尊厳を支える介護	2
13	<u>介護福祉士の倫理</u> ノーマライゼーションの実現	2
14	<u>自立に向けた介護</u> 介護における ICF のとらえ方	2
15	<u>自立に向けた介護</u> 介護実践におけるリハビリテーションの考え方	2
16	<u>介護福祉士の役割と機能</u> 介護問題の背景と介護福祉士制度	2
17	<u>介護福祉士の役割と機能</u> 社会福祉士及び介護福祉士法	2
18	<u>介護福祉士の役割と機能</u> 社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定	2
19	<u>介護福祉士の倫理</u> 専門職能団体の持つ役割	2
20	<u>介護福祉士の倫理</u> 介護実践における倫理	2
21	<u>介護福祉士の倫理</u> 日本介護福祉士会倫理綱領	2
22	<u>介護を必要とする人の理解</u> 介護サービスの意味と特性	2
23	<u>介護を必要とする人の理解</u> 介護サービスの歴史と時代	2
24	<u>介護を必要とする人の理解</u> 介護サービスの種類と提供の場	2

25	自立に向けた介護 自立支援		2
26	自立に向けた介護 介護予防		2
27	ニーズ・パーソンセンタードケア		2
28	パーソンセンタードケア・ユマニチュード		2
29	ユマニチュード		2
30	中間確認試験		2
31	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ	高齢者の施設サービス	2
32	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ	高齢者の施設サービス	2
33	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ	高齢者の居宅サービス	2
34	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ	高齢者の居宅サービス	2
35	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ	障害者の施設サービス	2
36	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ	障害者の居宅サービス	2
37	協働する多職種役割と機能	多職種連携の意義と目的	2
38	地域連携の意義と目的		2
39	利用者を取り巻く地域連携の実際		2
40	介護における安全の確保とリスクマネジメント	安全確保の重要性	2
41	介護における安全の確保とリスクマネジメント ためのリスクマネジメント	事故防止・安全対策の	2
42	介護における安全の確保とリスクマネジメント	生活の中のリスクと対策	2
43	介護における安全の確保とリスクマネジメント	生活の場での感染対策	2
44	介護における安全の確保とリスクマネジメント メント	施設でのリスクマネジ	2
45	レクリエーションの基礎理論		2
46	レクリエーションの理解と歴史		2
47	レクリエーション支援の展開と方法		2
48	レクリエーション支援の目標と理念		2
49	レクリエーション支援者の役割		2
50	レクリエーション組織の役割と運営		2
51	ホスピタリティトレーニング		2
52	アイスブレイキング		2
53	アイスブレイキングの必要場面とそのプログラム		2
54	レクリエーション種目の実際（計画立案） 選択活動種目（スポーツ系、自然活動系、ものづくり系、暮らし遊び系）		2
55	レクリエーション種目の実際（計画立案） 選択活動種目（スポーツ系、自然活動系、ものづくり系、暮らし遊び系）		2
56	レクリエーション種目の実際（計画立案） 選択活動種目（スポーツ系、自然活動系、ものづくり系、暮らし遊び系）		2
57	レクリエーション種目の実際（計画立案） 選択活動種目（スポーツ系、自然活動系、ものづくり系、暮らし遊び系）		2
58	レクリエーション種目の実際（発表：実践）		2
59	レクリエーション種目の実際（発表：実践）		2
60	中間試験		2
61	多職種連携・協働の必要性		2
62	多職種協働と社会の動きについて		2
63	多職種協働と社会の動きについて		2
64	多職種協働を成功させるための知識		2

65	多職種協働に求められるコミュニケーション能力	2
66	保健・医療・福祉職の役割と機能	2
67	保健・医療・福祉職の役割と機能	2
68	保健・医療・福祉職の役割と機能	2
69	保健・医療・福祉職の役割と機能	2
70	保健・医療・福祉職の役割と機能	2
71	<u>介護従事者の安全</u> 心とからだの健康管理	2
72	<u>介護従事者の安全</u> 労働環境の整備	2
73	<u>介護従事者の安全</u> 労働安全の基本原則	2
74	全体まとめ	2
75	修了試験	2

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準など)

出席状況、授業態度と試験及びレポート提出により評価

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版

第3巻「介護の基本Ⅰ」

第4巻「介護の基本Ⅱ」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	(介護の基本) リハビリテーション論	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	リハビリテーションの基礎的学習に併せて、様々な障害や疾病の理解を深める。また施設・社会におけるリハビリテーションの事例演習で、実践的な知識を学ぶ。				
担当講師	氏名 川副 巧成、岡本 康宏	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
実務経験	理学療法士として病院や運営する介護施設で、臨床経験がある。講義では現場で役立つ知識・技術を指導する。				
時 間 数	30 時間	単位数	2 単位	学習時期	学年 2 年生 期 前期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	リハビリテーションの理念と基本原則を理解し、実践に役立つ社会的リハビリテーションの専門技術と知識が身につく。				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 ・リハビリテーション（移動について）演習を行う。 				

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	施設の機能と目的、家庭での生活を目指して	2
2	施設生活の長所と短所、施設入居者の理解	2
3	処遇とリハビリテーション	2
4	<u>自立に向けた介護</u> ADLとQOL	2
5	<u>自立に向けた介護</u> 新しい環境適応のために	2
6	<u>自立に向けた介護</u> 欲求を満たすこと、意欲を阻害するものへの対処方法	2
7	<u>自立に向けた介護</u> アクティブ・リスニング、からだの異常の訴え	2
8	<u>自立に向けた介護</u> 歩ける人のリハビリテーション	2
9	<u>自立に向けた介護</u> 立てるが歩けない人のリハビリテーション	2
10	<u>自立に向けた介護</u> 一人で起きられるが立てない人のリハビリテーション	2
11	<u>自立に向けた介護</u> 一人で起きられないが起こせば座っていられる人のリハビリテーション、何とか起こせる人のリハビリテーション	2
12	<u>自立に向けた介護</u> どうしても起こせない人のリハビリテーション	2
13	<u>自立に向けた介護</u> 介護予防の概要と実際	2
14	<u>自立に向けた介護</u> 介護予防における介護福祉士の役割	2
15	修了試験	2

成績評価の方法・基準 (単位認定のレポートの評価基準等) 試験の結果、出席状況による評価

使用教材・参考文献 中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版 第3巻「介護の基本Ⅰ」その他資料

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	(コミュニケーション技術) コミュニケーション技術	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	様々な対象者、様々な場面を想定して、コミュニケーションの取り方を実践的に学ぶ。				
担当講師	氏名 菅沼 真弓	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
実務経験	介護福祉士として、通所施設等で介護経験、介護支援専門員として特養での勤務を活かし、介護現場で必要な知識・技術の講義を行う。				
時間数	30 時間	単位数	2 単位	学習時期	学年 1 年生 期 前期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	介護福祉士としての専門的知識及び技術の基本要件の修得をはかりつつ、援助者としての自己覚知ができるようになる。				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、資料、演習による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 				

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	コミュニケーションの意義と目的	2
2	コミュニケーションの基本	2
3	<u>介護を必要とする人とのコミュニケーション</u> 利用者・家族との信頼関係の形成、利用者を深く理解するためのコミュニケーション	2
4	<u>介護を必要とする人とのコミュニケーション</u> 話を聞く技法 利用者の感情・表情を観察する技法 納得と同意を得る技法	2
5	<u>介護を必要とする人とのコミュニケーション</u> 質問の技法 利用者の理解を深める質問の技法〔事例検討〕	2
6	<u>介護を必要とする人とのコミュニケーション</u> 相談・助言・指導の技法	2
7	<u>障害の特性に応じたコミュニケーション</u> 利用者の意欲を引き出す技法 利用者の意欲を引き出す技法〔事例検討〕	2
8	<u>介護における家族とのコミュニケーション</u> 利用者と家族の意向を調整する技法	2
9	<u>障害の特性に応じたコミュニケーション</u> 複数の利用者がある場面でのコミュニケーション	2
10	<u>障害の特性に応じたコミュニケーション</u> コミュニケーション障害のある利用者を支えるコミュニケーション技術	2
11	<u>障害の特性に応じたコミュニケーション</u> 高次脳機能障害、認知症、聴覚障害の特性に応じたコミュニケーション技術	2
12	<u>介護におけるチームのコミュニケーション</u> チームのコミュニケーションとは、「報告」「連絡」「相談」の意義と目的	2
13	<u>介護におけるチームのコミュニケーション</u> 記録の意義と目的	2
14	<u>介護におけるチームのコミュニケーション</u> 会議の意義と目的	2
15	修了試験	2

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準等)

出席状況と試験の結果

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版

第5巻「コミュニケーション技術」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学科名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科目名	(コミュニケーション技術) 手話	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	聴覚、言語障害と関連する医学の基礎知識、聴覚障害の特性、コミュニケーションの方法（筆談、読話、手話等）を習得し、重複（盲聾）障害者について理解する。				
担当講師	氏名	ろうあ協会派遣教員	<input type="checkbox"/>	実務経験を有する教員	
実務経験					
時間数	30 時間	単位数	2 単位	学習時期	学年 2 年生 期 前期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	聴覚障害者についての知識、理解を深め、きこえない人とのコミュニケーションができる。特に、手話で簡単な日常会話ができる。				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義、実際の手話の動きを見て視覚的効果の高い授業を行う。 ・指導者の指示に従い、手話の実践をする。 				

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	<u>障害の特性に応じたコミュニケーション</u> 聴覚障害の基礎知識 聴覚と言語機能のしくみと医学的理解	2
2	<u>障害の特性に応じたコミュニケーション</u> 聞こえないということはどういうことか考える	2
3	<u>障害の特性に応じたコミュニケーション</u> 名前の紹介	2
4	<u>障害の特性に応じたコミュニケーション</u> 家族を紹介	2
5	<u>障害の特性に応じたコミュニケーション</u> 聴覚障害者の生活について	2
6	<u>障害の特性に応じたコミュニケーション</u> 「聴覚障害者の生活・願い」～一般社団法人長崎県ろうあ協会（講演）～	2
7	<u>障害の特性に応じたコミュニケーション</u> 趣味について話しましょう	2
8	<u>障害の特性に応じたコミュニケーション</u> 数字を使って話しましょう	2
9	<u>障害の特性に応じたコミュニケーション</u> 仕事について話しましょう	2
10	<u>障害の特性に応じたコミュニケーション</u> 自己紹介をしましょう	2
11	<u>障害の特性に応じたコミュニケーション</u> フリートーク	2
12	<u>障害の特性に応じたコミュニケーション</u> 盲ろうとは 盲ろう者とのコミュニケーションについて	2
13	<u>障害の特性に応じたコミュニケーション</u> ろうあ者との交流 実践	2
14	<u>障害の特性に応じたコミュニケーション</u> 「手話で会話をしてみましょう！」	2
15	修了試験 「筆記・実技」	2

成績評価の方法・基準 （試験やレポートの評価基準等） 出席状況と試験・課題レポートにより評価

使用教材・参考文献 一ッ橋出版 「聴覚・言語障害者とコミュニケーション」 （財）全日本ろうあ連盟出版局 「新 手話教室入門」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	(コミュニケーション技術) 点字	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	視覚障害者にとっての点字の位置づけ並びにその歴史と点訳の実践。(通常は点字版を使用。 また、点字文の読みと課題文についてのレポート提出を随時行う。)				
担当講師	氏名 筒井 昭子	<input type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
実務経験					
時 間 数	30 時間	単位数	2 単位	学習時期	学年 2 年生 期 後期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	点字・点訳の技術を修得し、実践に役立たせること。				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義を中心とする。 ・点字の演習をする。 				

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	障害の特性に応じたコミュニケーション 視覚障害と視覚障害者の実情、視覚障害者にとっての点字の位置づけ及び歴史	2
2	障害の特性に応じたコミュニケーション 点字・点訳の基礎（点字板の使い方、点訳の基本事項）	2
3	障害の特性に応じたコミュニケーション 点字かなの構成、五十音	2
4	障害の特性に応じたコミュニケーション 基本的なかなづかい	2
5	障害の特性に応じたコミュニケーション（語の書き表し方）	2
6	障害の特性に応じたコミュニケーション（数字と数字を含む語の書き表し方）	2
7	障害の特性に応じたコミュニケーション（アルファベットとアルファベットを含む語の書き表し方）	2
8	障害の特性に応じたコミュニケーション（分かち書き1－自立語）	2
9	障害の特性に応じたコミュニケーション（分かち書き2－付属語）	2
10	障害の特性に応じたコミュニケーション（分かち書き3－複合語）	2
11	障害の特性に応じたコミュニケーション（分かち書き4－固有名詞）	2
12	障害の特性に応じたコミュニケーション点訳（記号・符号の使い方）	2
13	障害の特性に応じたコミュニケーション点訳（書き方の形式－手紙、表等）	2
14	まとめ	2
15	修了試験	2

成績評価の方法・基準
(試験やレポートの評価基準等)
出席状況と授業態度、試験結果により評価

使用教材・参考文献
全国視覚障害者情報提供施設協会 「はじめての点訳」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学科名	介護福祉科		専門課程	教育・社会福祉専門課程			
科目名	(生活支援技術) 生活支援技術Ⅰ 生活		授業方法	■ 講義	□ 実技	□ 実習	
授業概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から本人主体の生活の継続ができるよう。生活支援について理解する。 家庭生活の意義、家庭経営、家庭管理、家庭経済について。						
担当講師	氏名	菅沼 真弓	■	実務経験を有する教員			
実務経験	介護福祉士として、通所施設等で介護経験、介護支援専門員として特養での勤務を活かし、介護現場に必要な知識・技術の講義を行う。						
時間数	20 時間	単位数	1 単位	学習時期	学年	1 年生	期 前期
科目区分	■ 専門	□ 一般	履修区分	■ 必修	□ 選択	□ 自由選択	
到達目標	生活がどのような側面から構成されているかを理解する。 生活について、人間の発達段階と関連づけて理解する。 家庭生活の意義、家庭経営、家庭管理・家庭経済について理解する。 生活支援の対象者や生活支援の考え方、ICFについて理解する						
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 						
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターによる講義を中心とし、視覚的効果の高い授業を行う。 ・教科書と資料を使用しての授業を行う。 						

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	<u>生活支援の理解</u> 生活とは、生活形成のプロセス	2
2	<u>生活支援の理解</u> 生活支援の対象者、生活支援の考え方	2
3	<u>生活支援の理解</u> 家庭経営の在り方（ライフコース、生活設計等）	2
4	<u>生活支援の理解</u> 家庭管理（生活時間、家計費の在り方、高齢者・障害者の経済生活）	2
5	<u>生活支援の理解</u> ICFの視点に基づくアセスメント	2
6	<u>生活支援の理解</u> 生活支援と介護過程	2
7	<u>生活支援の理解</u> 生活支援と介護過程	2
8	<u>生活支援の理解</u> 根拠のある生活支援技術	2
9	<u>生活支援の理解</u> 生活支援とチームアプローチ	2
10	修了試験	2

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準等)
出席状況と試験結果により評価

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版
第6巻 「生活支援技術Ⅰ」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	(生活支援技術) 生活支援技術Ⅰ 栄養	授業方法	<input type="checkbox"/> 講義	<input checked="" type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	調理実習を通じて、年齢や疾病、障害に応じた食事形態を理解する。				
担当講師	氏名 太田 路子・菅沼 真弓	<input type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
実務経験					
時 間 数	30 時間	単位数	2 単位	学習時期	学年 1 年生 期 後期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	高齢者や障害者の望ましい食生活のあり方についての基礎的な知識を習得する。 安全で、健康を維持し、自立した食生活を考えることができるようになる。 調理方法の基礎知識と技術及び食中毒予防の為に、正しい衛生管理を身につける。				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義を中心とする。 ・調理実習を行い、調理方法を身に付ける。 				

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	<u>自立に向けた家事の介護</u> 栄養と健康、栄養素の機能について、栄養と生体リズム、消化吸収について	2
2	<u>自立に向けた家事の介護</u> 食品の成分と保存・管理知識、調理の概要と各種調理手法の特性、植物性・動物性食品の調理性	2
3	<u>自立に向けた家事の介護</u> 調理用設備・エネルギー源・調理器具の特性、老人・障害者の食生活の在り方	2
4	<u>自立に向けた家事の介護</u> 食事と生活習慣病の関係、食品衛生法の概要	2
5.6	<u>自立に向けた家事の介護</u> 基本の和食（豆茶飯、炊飯の基本、味噌汁、いりこ出汁の取り方、玉葱入りオムレツ、酢のもの、きゅうりとわかめ）	4
7.8	<u>自立に向けた家事の介護</u> 基本の洋食（豆腐ハンバーグ ラッシー、ポテトサラダ、ブロッコリーのおろし和え）	4
9.10	<u>自立に向けた家事の介護</u> 和食の調理（ちらし寿司、豚肉の生姜焼き、月見汁 白玉粉の扱い、かつお出汁の取り方）	4
11.12	<u>自立に向けた家事の介護</u> 高齢者の調理（芋粥、ほうれん草の白和え、カボチャのポタージュ、リンゴのコンポート）	4
13.14	<u>自立に向けた家事の介護</u> 高齢者の調理（ごはん団子の雑煮、鮭缶のテリーヌ、ジャガイモのトリュフ、牛乳茶碗蒸し）	4
15	修了試験	2

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準等) 出席状況と修了試験・実習態度により評価

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版
第6巻 「生活支援技術Ⅰ」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	(生活支援技術) 生活支援技術 I 被服	授業方法	<input type="checkbox"/> 講義	<input checked="" type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	○被服の役割と機能、素材、選択と管理、高齢者・障害者の被服について。 ○被服素材の鑑別方法、一般的な洗濯の仕方、保管方法等について学習する				
担当講師	氏名 太田 路子・菅沼 真弓	<input type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
実務経験					
時 間 数	30 時間	単位数	2 単位	学習時期	学年 1 年生 期 前期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	被服の役割と機能、素材、選択と管理、高齢者・障害者の被服について理解する。 高齢者・障害者の自立を助ける被服とは、どのようなものか分かる。 裁縫の基礎技術が身につく。 素材に応じた、アイロンがけや洗濯などができるようになる。				
準備学習の内容	・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする				
授業の進め方	・板書による講義を行う。 ・被服素材を使い、演習をする。				

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	<u>自立に向けた家事の介護</u> 被服の役割と機能（肌着の役割、衣料障害等）	2
2	<u>自立に向けた家事の介護</u> 被服の素材（被服材料・繊維・布についての理解、布の改質と加工）	2
3	<u>自立に向けた家事の介護</u> 被服の選択と管理（JIS 表示法・品質表示法、洗濯・しみ抜き等）	2
4	<u>自立に向けた家事の介護</u> 一般的な洗濯の仕方、漂白、しみぬき 等	2
5	<u>自立に向けた家事の介護</u> 糊付け、アイロンのかけ方、衣類の保管 等	2
6	<u>自立に向けた家事の介護</u> 高齢者・障害者のための被服デザイン・構成・色彩及び着脱の工夫	2
7	<u>自立に向けた家事の介護</u> 基礎実習 1（ミシン基礎学習）	2
8	<u>自立に向けた家事の介護</u> 基礎学習 2（手縫いの基礎実習）	2
9. 10	介護用衣服の製作 ①作図 ②裁断	4
11. 12	介護用衣服の製作 ③仮縫い点検 ④補正	4
13. 14	介護用衣服の製作 ⑤本縫い ⑥仕上げ	4
15	修了試験	2

成績評価の方法・基準
(試験やレポートの評価基準等)
出席状況・授業態度と製作物により評価

使用教材・参考文献
中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第 2 版 第 6 巻 「生活支援技術 I」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	(生活支援援助) 生活支援技術Ⅰ 住居	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	実際の住居の図面や写真（スライド）を通して住居の機能を把握していく。				
担当講師	氏名 井上 正雄	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
実務経験	一級建築士の免許を有し、建築物、インテリアの企画・設計・施工などの経験をもとに講義を行う。				
時 間 数	20 時間	単位数	1 単位	学習時期	学年 1 年生 期 後期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	介護施設や家庭生活の中での自立に向けた住環境の整備とは、どのようなものか理解できるようになる。また、住環境のアセスメント力が身につく。				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 				

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	自立に向けた居住環境の整備 住居の役割と機能 家族と住居	2
2	自立に向けた居住環境の整備 住居の役割と機能 住居と地域	2
3	自立に向けた居住環境の整備 生活行動の基本的要素	2
4	自立に向けた居住環境の整備 住宅平面の計画	2
5	自立に向けた居住環境の整備 ①室内環境の調節 ②光の調節	2
6	自立に向けた居住環境の整備 ③室内気候の調節 ④音の調節	2
7	自立に向けた居住環境の整備 ①住居の維持・管理 ②住居の衛生管理 ③災害と事故	2
8	自立に向けた居住環境の整備 ①自立した生活の条件づくり	2
9	自立に向けた居住環境の整備 ②住環境の整備 ③住まいと地域生活	2
10	試験	2

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準等)

出席状況と試験結果、課題レポート(設計図)により評価

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版
第6巻 「生活支援技術Ⅰ」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学科名	介護福祉科			専門課程	教育・社会福祉専門課程				
科目名	(生活支援技術) 生活支援技術Ⅱ 介護技術			授業方法	<input type="checkbox"/> 講義	<input checked="" type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習		
授業概要	「こころとからだのしくみ」で学んだ基礎知識をもとに、学生同士で介護者・利用者を体験することで、安全・安楽な介護技術を高めていく。								
担当講師	氏名	坂本 大樹、馬場 眞理子 山口 新、豊福 睦子 立川 百合恵 菅沼 真弓 松本 安広		<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員				
実務経験	坂本・馬場・山口・菅沼・松本は介護福祉士の資格を有し、高齢者施設、障害児（者）施設で長く経験しており、基本を踏まえ、現場で役立つ技術の指導を行う。豊福・立川は看護師の資格を有し、病院、介護施設等での経験があり、指導を行う。								
時間数	200 時間	単位数	13 単位	学習時期	学年	1 年生	期	前後期	前後期
					2 年生				
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択			
到達目標	個人の疾病や心身の状態、環境について、適切な介護技術を考え、実践できる力が身につく。 ボディメカニクスを活用した安全・安楽な介護技術力が身につく。								
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 								
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・実技科目のため、講師の指示に従って実技を行う。 ・数名の学生で一組になり、相互に実技を行う。 								

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	生活支援技術とは 介護技術に必要な基礎知識	2
2	休息・睡眠の介護 アセスメントの視点	2
3	休息・睡眠の介護 ベッドメイキングの手順	2
4	休息・睡眠の介護 ベッドメイキングの方法(2人でのベッドメイキング)	2
5	休息・睡眠の介護 ベッドメイキングの方法(2人でのベッドメイキング)	2
6	休息・睡眠の介護 ベッドメイキングの方法(1人でのベッドメイキング)	2
7	休息・睡眠の介護 ベッドメイキングの方法(1人でのベッドメイキング)	2
8	休息・睡眠の介護 ベッドメイキングの方法(シーツ交換)	2
9	休息・睡眠の介護 ベッドメイキングの方法(シーツ交換)	2
10	休息・睡眠の介護 ベッドメイキングの方法(シーツ交換と更衣)	2
11	休息・睡眠の介護 ベッドメイキングの方法(シーツ交換と更衣)	2
12	自立に向けた移動の介護 ボディメカニクス	2
13	自立に向けた移動の介護 アセスメントの視点 上方移動	2
14	自立に向けた移動の介護 水平移動 体位変換(対面法・背面法)	2
15	自立に向けた移動の介護 体位変換 起き上がり(一部介助)	2
16	自立に向けた移動の介護 起き上がり(全介助)	2
17	自立に向けた移動の介護 安楽な体位(仰臥位、側臥位、ファウラー位、シーティング)	2
18	自立に向けた移動の介護 車いすの使用法	2

19	<u>自立に向けた移動の介護</u>	車いすへの移乗：一部介助	2
20	<u>自立に向けた移動の介護</u>	車いすへの移乗：全介助	2
21	<u>自立に向けた移動の介護</u>	起き上がり～車いすへの移乗：一部介助)	2
22	<u>自立に向けた移動の介護</u>	起き上がり～車いすへの移乗：全介助)	2
23	<u>自立に向けた移動の介護</u>	水平移動・上方移動～起き上がり～車いすへの移乗	2
24	<u>自立に向けた移動の介護</u>	歩行の介助（歩行用具の種類、使い方）	2
25	<u>自立に向けた移動の介護</u>	歩行の介助（手引き歩行、杖歩行）	2
26	<u>自立に向けた移動の介護</u>	歩行の介助（杖歩行：段差越え、障害物、階段昇降）	2
27	<u>自立に向けた移動の介護</u>	ストレッチャー、スライディングボード、リフト	2
28	<u>自立に向けた移動の介護</u>	外出支援（高齢者疑似体験、車いす、杖歩行介助）	2
29	<u>自立に向けた移動の介護</u>	外出支援（高齢者疑似体験、車いす、杖歩行介助）	2
30	<u>自立に向けた移動の介護</u>	外出支援振り返り（まとめ）	2
31	<u>自立に向けた移動の介護</u>	振り返り（事例）	2
32	<u>自立に向けた移動の介護</u>	振り返り（事例）	2
33	<u>自立に向けた食事介護</u>	アセスメントの視点（座位・ベッドでの介助）	2
34	<u>自立に向けた食事の介護</u>	（座位での食事介助）	2
35	<u>自立に向けた食事の介護</u>	（座位での食事介助・口腔ケア）	2
36	<u>自立に向けた食事の介護</u>	（ベッド上での食事介助）	2
37	<u>自立に向けた食事の介護</u>	（ベッド上での食事介助・口腔ケア）	2
38	<u>自立に向けた身じたくの介護</u>	アセスメントの視点 整容の介助（洗面・整髪）	2
39	<u>自立に向けた身じたくの介護</u>	整容の介助（洗面・整髪・髭剃り）	2
40	<u>自立に向けた身じたくの介護</u>	整容の介助（洗面・整髪・髭剃り）	2
41	<u>自立に向けた身じたくの介護</u>	整容の介助（口腔ケア）	2
42	<u>自立に向けた身じたくの介護</u>	（上衣・前開き、ズボン）：座位（一部）	2
43	<u>自立に向けた身じたくの介護</u>	（上衣・前開き、ズボン）：座位（全介助）	2
44	<u>自立に向けた身じたくの介護</u>	（上衣・かぶり、ズボン）：座位（一部）	2
45	<u>自立に向けた身じたくの介護</u>	（上衣・かぶり、ズボン）：座位（全介助）	2
46	<u>自立に向けた身じたくの介護</u>	（上衣・前開き、ズボン）：臥位（一部）	2
47	<u>自立に向けた身じたくの介護</u>	（上衣・前開き、ズボン）：臥位（全介助）	2
48	<u>自立に向けた身じたくの介護</u>	（上衣・かぶり、ズボン）：臥位（一部）	2
49	<u>自立に向けた身じたくの介護</u>	（上衣・かぶり、ズボン）：臥位（全介助）	2
50	<u>自立に向けた身じたくの介護</u>	（浴衣）：臥位（全介助）	2
51	<u>自立に向けた身じたくの介護</u>	（靴下、短下肢装具）	2
52	<u>自立に向けた身じたくの介護</u>	衣服脱着の介助：振り返り（事例発表）	2
53	<u>自立に向けた身じたくの介護</u>	衣服脱着の介助：振り返り（事例発表）	2
54	<u>自立に向けた入浴・清潔保持の介護</u>	（機械浴・一般浴・シャワー浴）	2
55	<u>自立に向けた入浴・清潔保持の介護</u>	（機械浴・一般浴・シャワー浴）	2
56	<u>自立に向けた入浴・清潔保持の介護</u>	（機械浴・一般浴・シャワー浴）	2
57	<u>自立に向けた入浴・清潔保持の介護</u>	（機械浴・一般浴・シャワー浴）	2
58	<u>自立に向けた入浴・清潔保持の介護</u>	（手浴、爪切り演習）	2
59	<u>自立に向けた入浴・清潔保持の介護</u>	（足浴、爪切り演習）	2
60	<u>自立に向けた入浴・清潔保持の介護</u>	（清拭）	2
61	<u>自立に向けた入浴・清潔保持の介護</u>	（洗髪）	2
62	<u>自立に向けた排泄の介護</u>	アセスメントの視点	2
63	<u>自立に向けた排泄の介護</u>	トイレでの介助	2
64	<u>自立に向けた排泄の介護</u>	トイレでの介助（リハビリパンツ・尿取りパット）	2

65	<u>自立に向けた排泄の介護</u>	Pトイレでの介助	2
66	<u>自立に向けた排泄の介護</u>	Pトイレでの介助(リハビリパンツ・尿取りパット)	2
67	<u>自立に向けた排泄の介護</u>	ベッド上での介助(尿器・便器)	2
68	<u>自立に向けた排泄の介護</u>	ベッド上での介助(尿器・便器)	2
69	<u>自立に向けた排泄の介護</u>	ベッド上での介助(紙おむつ)	2
70	<u>自立に向けた排泄の介護</u>	ベッド上での介助(紙おむつ)	2
71	<u>自立に向けた排泄の介護</u>	ベッド上での介助(布おむつ)	2
72	<u>自立に向けた排泄の介護</u>	ベッド上での介助(布おむつ)	2
73	<u>自立に向けた排泄の介護</u>	まとめ(事例)	2
74	<u>自立に向けた排泄の介護</u>	まとめ(事例)	2
75	確認試験		2
76	確認試験		2
78	<u>福祉用具の意義と活用</u>		2
79	<u>福祉用具の意義と活用</u>		2
80	<u>人生の最終段階における介護</u>		2
81	<u>人生の最終段階における介護</u>		2
82	<u>人生の最終段階における介護</u>		2
83	<u>人生の最終段階における介護</u>	(エンゼルメイク)	2
84	<u>人生の最終段階における介護</u>	(エンゼルケア)	2
85	<u>人生の最終段階における介護</u>	(エンゼルケア)	2
86	<u>人生の最終段階における介護</u>	(タクティールケア)	2
87	<u>人生の最終段階における介護</u>	(タクティールケア)	2
88	<u>人生の最終段階における介護</u>		2
89	応急手当		2
90	応急手当(異物除去)		2
91	応急手当(三角巾)		2
92	応急手当(包帯法)		2
93	障害に応じた介護	介護技術の振り返り・まとめ	2
94	障害に応じた介護	介護技術の振り返り・まとめ	2
95	障害に応じた介護	介護技術の振り返り・まとめ	2
96	障害に応じた介護	介護技術の振り返り・まとめ	2
97	障害に応じた介護	介護技術の振り返り・まとめ	2
98	障害に応じた介護	介護技術の振り返り・まとめ	2
99	障害に応じた介護	介護技術の振り返り・まとめ	2
100	障害に応じた介護	介護技術の振り返り・まとめ	2

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準等)

出席状況と実技試験により評価

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版

第6巻 「生活支援技術Ⅰ」

第7巻 「生活支援技術Ⅱ」

第8巻 「生活支援技術Ⅲ」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学科名	介護福祉科		専門課程	教育・社会福祉専門課程					
科目名	介護過程		授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習			
授業概要	テキスト及び2段階実習までに実際に学生が体験した介護状況から得られる情報を基にした資料などを用いて実践的に学ぶ。								
担当講師	氏名	田川 千秋 森 廣子 菅沼 真弓 松本 安広	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員					
実務経験	介護福祉士として、介護施設等で長く経験している。介護教員講習会を修了しており、現場経験をもとに介護過程の展開を指導する。								
時間数	150 時間	単位数	10 単位	学習時期	学年	1 年生	期	前後期	前後期
						2 年生			
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択			
到達目標	個々の課題（ニーズ）は何か注目することができる。 介護過程の一連の流れが理解でき、様々な視点から考える力を養う。 「介護過程」の学習をもとに、実習での「介護計画」の一連を検証し研究する。								
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 								
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・板書やプロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 ・事例課題を準備し、個別指導を行う。介護実習で担当した事例を検討する。 ・研究した事例を発表する。 								

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1.2	<u>介護過程の意義と基礎的理解</u> ：介護過程の意義・目的、展開の基本視点を学ぶ	4
3.4	<u>介護過程の意義と基礎的理解</u> ：生活支援の考え方と介護過程の必要性の理解	4
5	<u>介護過程の意義と基礎的理解</u> ：介護過程の理解	2
6	<u>介護過程の意義と基礎的理解</u> ：介護過程の理解（ICF）	2
7	<u>介護過程の意義と基礎的理解</u> ：介護過程の理解（ICF）	2
8	<u>介護過程の意義と基礎的理解</u> ：介護過程の理解（アセスメント）	2
9	<u>介護過程の意義と基礎的理解</u> ：介護過程の理解（アセスメント表）	2
10	<u>介護過程の意義と基礎的理解</u> ：介護過程の理解（計画の立案）	2
11	<u>介護過程の意義と基礎的理解</u> ：介護過程の理解（計画の立案）	2
12	<u>介護過程の意義と基礎的理解</u> ：介護過程の理解（実施）	2
13	<u>介護過程の意義と基礎的理解</u> ：介護過程の理解（評価）	2
14	<u>介護過程の意義と基礎的理解</u> ：介護過程の理解（評価）	2
15	試験	2
16	<u>介護過程とチームアプローチ</u> ：利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開について	2
17	} <u>介護過程とチームアプローチ</u> ： アセスメントの実際（在宅生活を望む生活支援の事例1）	2
18		2
19		2
20	} <u>介護過程とチームアプローチ</u> ： アセスメントの実際（在宅生活の継続の事例2）	2
21		2
22		2

23	} <u>介護過程とチームアプローチ：</u> アセスメントの実際（老健で終末期を迎える事例3）	2
24		2
25		2
26	} <u>介護過程とチームアプローチ：</u> アセスメントの実際（グループホームでの生活支援の事例4）	2
27		2
28		2
29	介護過程の基礎の振り返り	2
30	試験	2
31	<u>介護過程の展開の理解：第2段階実習での事例の記録の振り返り・修正</u>	2
32	<u>介護過程の展開の理解：第2段階実習での事例の記録の振り返り・修正</u>	2
33	<u>介護過程の展開の理解：第2段階実習での事例の記録の振り返り・修正</u>	2
34	<u>介護過程の展開の理解：第2段階実習での事例：介護計画立案</u>	2
35	<u>介護過程の展開の理解：第2段階実習での事例：介護計画立案</u>	2
36	<u>介護過程の展開の理解：第2段階実習での事例：介護計画立案</u>	2
37	<u>介護過程の展開の理解：第2段階実習での事例：介護計画立案</u>	2
38	<u>介護過程の展開の理解：第2段階実習での事例：介護計画立案</u>	2
39	<u>介護過程の展開の理解：事例のまとめ発表</u>	2
40	<u>介護過程の展開の理解：事例のまとめ発表</u>	2
41	介護過程の一連の確認	2
	「介護過程」展開の実際	
42	} <u>介護過程の展開の理解：</u> 障害者支援施設での生活支援の展開事例)	2
43		2
44		2
45	} <u>介護過程の展開の理解：</u> 介護老人福祉施設で生活する方の展開事例	2
46		2
47		2
48	} <u>介護過程の展開の理解：</u> 介護老人保健施設で生活する方の展開事例	2
49		2
50		2
51	<u>介護過程の展開の理解：第3段階での事例の振り返り</u>	2
52	<u>介護過程の展開の理解：第3段階での事例の振り返り</u>	2
53	<u>介護過程とチームアプローチ：介護過程とケアマネジメントの関係性</u>	2
54	<u>介護過程とチームアプローチ：チームアプローチにおける介護福祉士の役割</u>	2
55	<u>介護過程とチームアプローチ：チームアプローチにおける介護福祉士の役割</u>	2
56	試験（事例課題）	2
57	試験（事例課題）	2
58	3段階実習でのアセスメントシートの検証	2
59	3段階実習での介護計画書の検証	2
60	計画修正の必要性の検討	2
61	事例研究とは 研究的視点	2
62	介護計画事例のまとめ①	2
63	介護計画事例のまとめ②	2
64	介護計画事例のまとめ③	2
65	介護計画事例のまとめ④	2
66	介護計画事例のまとめ⑤	2
67	介護計画事例のまとめ⑥	2

68	介護計画事例のまとめ⑦	2
69	介護計画事例のまとめ⑧	2
70	介護計画事例のまとめ⑨	2
71	介護計画事例のまとめ発表準備、最終確認	2
72	事例発表会	2
73	事例発表会	2
74	事例発表会	2
75	事例発表会	2

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準など)

出席状況及び筆記試験、事例発表資料、内容にて評価

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版
第9巻 「介護過程」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学科名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程				
科目名	介護総合演習	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 演習	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習		
授業概要	1. 介護実習の目的や福祉の現場のイメージができるよう具体例をあげて授業を行う。 2. 専任教員それぞれが連携し授業を進める。 3. 学生の発言力、文章力を高めるためグループワーク、発表を多く取り入れる。						
担当講師	氏名	立川 百合恵、菅沼 真弓 松本 安広	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員			
実務経験	立川は看護師として病院で勤務。菅沼・松本は介護福祉士として介護現場で経験がある。それぞれ実習指導の経験や新人指導の経験があり実務経験を活かした実習前後の指導を行う。						
時間数	120 時間	単位数	8 単位	学習時期	学年	1 年生 2 年生	期 前後期 前期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択	
到達目標	介護実習の目的と意義を理解する 実習施設の機能、特徴、利用者像を理解する。 事後学習において、自己の評価を客観的に行い、実習への主体的な準備ができる。						
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 						
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト、介護実習マニュアルによる講義・演習を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 ・実習ごとの事後学習として、実習の振り返りの発表会を設ける。 						

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	知識と技術の統合 介護総合演習の位置づけと目的 実習Ⅰと実習Ⅱの概要	2
2	知識と技術の統合 本校マニュアルの説明	2
3	知識と技術の統合 介護老人福祉施設・介護老人保健施設（法人、制度）	2
4	知識と技術の統合 養護老人ホーム、ケアハウス、小規模多機能型居宅介護、有料老人ホーム	2
5	知識と技術の統合 通所介護、通所リハビリテーション、グループホーム、	2
6	知識と技術の統合 実習Ⅰの予定、誓約書、個人票の配布と記入	2
7	知識と技術の統合 オリエンテーション（事前訪問）についての注意点	2
8	知識と技術の統合 記録の重要性と実習日誌の書き方	2
9	知識と技術の統合 カンファレンス、反省会の方法（ロールプレイング）	2
10	知識と技術の統合 実習の心得、マナー、エチケット	2
11	知識と技術の統合 健康管理、感染予防対策、手洗い演習	2
12	知識と技術の統合 実習計画書の作成	2
13	知識と技術の統合 実習宣誓式の準備	2
14	実習宣誓式	2
15	知識と技術の統合 1段階実習の目標に対する反省、お礼状	2
16	知識と技術の統合 1段階実習の学び グループワーク	2
17	知識と技術の統合 1段階実習の学び グループワーク	2
18	知識と技術の統合 1段階実習の学び グループワーク	2
19	知識と技術の統合 1段階実習の学び（発表）：施設毎	2
20	知識と技術の統合 1段階実習の学び（発表）：施設毎	2
21	知識と技術の統合 1段階施設実習の概要について、個人票、誓約書作成	2
22	知識と技術の統合 実習日誌の書き方演習（自己・他人の記録による理解）	2
23	知識と技術の統合 実習の心得、注意事項確認、記録の配布	2
24	2年生からのスーパービジョン（施設ごと）	2
25	知識と技術の統合 1段階実習（施設実習）に対する反省・学び、お礼状	2
26	知識と技術の統合 1段階実習（施設実習）の振り返り：実習の学びのまとめ	2
27	知識と技術の統合 1段階実習（施設実習）の学び（発表）：個人	2
28	知識と技術の統合 1段階実習（施設実習）の学び（発表）：個人	2
29	知識と技術の統合 2段階実習（施設実習）の概要について、実習施設の理解	2
30	個人面談、第2段階実習個人票作成、個人目標の設定	2
31	知識と技術の統合 介護過程の一連の流れ、情報収集について	2
32	知識と技術の統合 情報収集について（事例演習）、記録用紙の書き方	2
33	知識と技術の統合 レクリエーション実施について	2
34	知識と技術の統合 レクリエーション準備	2
35	実技練習、確認	2
36	実技練習、確認	2
37	知識と技術の統合 2段階実習（施設実習）に対する反省・学び、お礼状	2
38	知識と技術の統合 2段階実習（施設実習）の学び（発表）：個人	2
39	知識と技術の統合 2段階実習（施設実習）の学び（発表）：個人	2
40	知識と技術の統合 2段階実習（GW）の概要について、実習施設の理解	2
41	個人票、誓約書作成	2
42	実習の心得、注意事項確認、記録の配布	2

43	知識と技術の統合 2段階実習 (GW) に対する反省・学び、お礼状	2
44	知識と技術の統合 2段階実習 (GW) の学び (発表) : 個人	2
45	知識と技術の統合 2段階実習 (GW) の学び (発表) : 個人	2
46	知識と技術の統合 3段階実習の概要について	2
47	知識と技術の統合 個人面談、第3段階実習個人票作成、個人目標の設定	2
48	介護実践の科学的探求 介護計画 情報収集～アセスメント	2
49	介護実践の科学的探求 介護計画 課題抽出～プラン立案	2
50	介護実践の科学的探求 介護計画 プラン実行～評価	2
51	介護実践の科学的探求 介護計画 ケースカンファレンスの実施について	2
52	知識と技術の統合 夜勤実習について、夜勤時の注意事項、夜勤前の過ごし方	2
53	知識と技術の統合 記録用紙の説明と配布	2
54	3段階実習 (施設実習) に対する反省・学び、お礼状	2
55	介護実践の科学的探求 3段階実習 (施設実習) の振り返り : 実習の学びの まとめ	2
56	介護実践の科学的探求 3段階実習 (施設実習) の学びまとめ	2
57	介護実践の科学的探求 3段階実習 (施設実習) の学びまとめ	2
58	介護実践の科学的探求 3段階実習 (施設実習) の学び (発表) : 個人	2
59	介護実践の科学的探求 3段階実習 (施設実習) の学び (発表) : 個人	2
60	試験	2

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準等)
出席状況と試験結果により評価

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版
第10巻 「介護総合演習・介護実習」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程					
科 目 名	(介護) 介護実習	授業方法	<input type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input checked="" type="checkbox"/> 実習			
授業概要	<p>施設の実習指導者の指導に従い、見学や見守り、職員と一緒に介護技術の確認を行う。積極的に利用者・家族、職員とのコミュニケーションを図り、個々に応じた、適切なコミュニケーションの実践力を身につける。</p> <p>養護老人ホーム、ケアハウス等、通所サービス事業所、グループホームでは、居宅生活の形態を理解し、必要とされるサービスについて理解する。</p> <p>・実習施設Ⅱでは、施設の実習指導者の指導のもと、個々に応じた自立支援にむけた介護技術を実践し、個別ケアの理解のため、対象者を決めて情報収集を行う。</p>							
担当講師	氏名	立川百合恵、菅沼 真弓 松本 安広	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員				
実務経験	立川は看護師として病院で勤務。菅沼・松本は介護福祉士として介護現場で経験がある。それぞれ実習指導の経験や新人指導の経験があり実務経験を活かした実習指導を行う。							
時間数	456 時間	単位数	30 単位	学習時期	学年	1 年生	期	前後期 前期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択		
到達目標	<p>支援を受けながら生活している人々を理解する。また、自ら学ぶ姿勢を持ち、積極的にコミュニケーションの実践や介護技術の確認などを行い、介護福祉士としての基本姿勢が身につく。</p> <p>さまざまな生活の形態を知り、必要とされるサービスは何かという観察視点を持つことができるようになる。また、そのサービス提供のために、関係する多職種の理解と協働・連携の必要性について理解できるようになる。</p>							
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前指導で実習方法を学ぶ。 ・実習施設までの経路を確認する。 							
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設の実習指導担当者の指示に従い、現場での実習を行う。 							

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
	<p><u>地域における生活支援の実践</u></p> <p>養護老人ホーム、ケアハウス、小規模多機能型居宅介護、有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅のいずれかにおいて4日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設内オリエンテーション、構造と各セクションの理解、職員の業務、機能の理解、日常業務を通し、利用者の生活全般の理解 ・職員の利用者との接し方を観察し、それに対する利用者の反応を観察 ・多くの利用者とは接しながらそれぞれの特性を観察し、関わり方・共感的理解を意識したコミュニケーション技法の実践 ・介護者としての姿勢を学ぶ 	32

	<p><u>地域における生活支援の実践、多職種協働に実践</u> 介護老人保健施設・介護老人福祉施設のいずれか において 10日間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設内オリエンテーション、構造と各セクションの案内、各職員の業務、機能の理解、日常業務を通し、利用者の生活全般の理解 ・職員の利用者との接し方を観察し、それに対する利用者の反応を観察 ・多くの利用者とは接しながらそれぞれの特性を観察し、関わり方・共感的理解を意識したコミュニケーション技法の実践 ・介護者としての姿勢を学ぶ <p><u>地域における生活支援の実践、多職種協働に実践</u> 居宅サービス利用者の理解とサービス内容の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通所介護・通所リハビリテーションのいずれかで5日間実習 <p><u>地域における生活支援の実践</u> 認知症のある人の理解とサービス内容の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループホームで3日間 <p><u>介護過程の実践的展開、多職種協働に実践</u> 実習施設Ⅱ（介護老人福祉施設・介護老人保健施設）にて35日間 （1年次第2段階：15日間、2年次第3段階：20日間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の確認と実践 ・多職種の理解と協働・連携についての理解 ・不規則勤務、夜勤実習を行い、介護業務全般を学ぶとともに、利用者の24時間を理解する。 ・介護過程を実践 <p>利用者の抱える課題について注目しながら、コミュニケーションを図る 情報収集・アセスメントを行い、利用者の課題を明確にする 職員の助言や指導をもとに、利用者の意向を取り入れたプランの立案 利用者の状態に合せながらプランを実行し、観察する 評価を行い、プランの継続や改善点を考察する。 事例研究を意識した介護過程の展開を行う</p>	<p>80</p> <p>40</p> <p>24</p> <p>280</p>
--	---	--

<p>成績評価の方法・基準</p> <p>（試験やレポートの評価基準等）</p> <p>出席状況と実習評価表による評価</p>

<p>使用教材・参考文献</p> <p>中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版 第10巻 「介護総合演習・介護実習」</p>

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	発達と老化の理解	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	身体の構造や機能、疾病や日常生活における障害を、事例や資料を併せ、学習していく。				
担当講師	氏名 荒木 美和	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
実務経験	看護師として、病院、障害児施設での勤務経験がある。小児から高齢者まで現場で対応した経験をもとに発達と老化の講義を行う。				
時 間 数	60 時間	単位数	4 単位	学習時期	学年 1 年生 期 前・後期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	介護福祉士として必要な基礎的な医学の知識を身につけることにより、利用者の状態の変化を的確に捉えることができるようになる。不可逆的な老化が生活の変化にどう関わるのかを知る。				
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターによる講義を中心とし、視覚的効果の高い授業を行う。 ・教科書と資料を使用しての授業を行う。 				

授業進行計画表

回 数	授 業 内 容	時 間 数
1	<u>人間の成長と発達の基礎的理解</u> 発達とは	2
2	<u>人間の成長と発達の基礎的理解</u> 人間の発達段階と発達課題／発達と個人差	2
3	<u>人間の成長と発達の基礎的理解</u> 老化とは／老年期の発達課題と留意点	2
4	<u>人間の成長と発達の基礎的理解</u> 老化の及ぼす心理的影響	2
5	<u>人間の成長と発達の基礎的理解</u> 老いの価値観・受容	2
6	<u>老化に伴うところとからだの変化と生活</u> 高齢者のところの問題と精神障害	2
7	<u>老化に伴うところとからだの変化と生活</u> (身体機能)	2
8	<u>老化に伴うところとからだの変化と生活</u> (姿勢・皮膚)	2
9	<u>老化に伴うところとからだの変化と生活</u> 免疫機能の変化と日常生活への影響	2
10	<u>老化に伴うところとからだの変化と生活</u> :感覚機能の変化と日常生活への影響(神経伝達)	2
11	<u>老化に伴うところとからだの変化と生活</u> :感覚機能の変化と日常性活への影響(視機能)	2
12	<u>老化に伴うところとからだの変化と生活</u> :感覚機能の変化と日常生活への影響(聴覚)	2
13	<u>老化に伴うところとからだの変化と生活</u> :感覚機能の変化と日常生活への影響(嗅覚・味覚・平衡覚・触覚)	2
14	<u>老化に伴うところとからだの変化と生活</u> :感覚機能の変化と日常生活への影響(皮膚感覚)	2
15	修了試験前期	2
16	<u>老化に伴うところとからだの変化と生活</u> 咀嚼機能・消化機能の変化(咀嚼機能)	2
17	<u>老化に伴うところとからだの変化と生活</u> 咀嚼機能・消化機能の変化(消化機能)	2
18	<u>老化に伴うところとからだの変化と生活</u> 循環器の機能の変化	2
19	<u>老化に伴うところとからだの変化と生活</u> 呼吸器の機能の変化	2
20	<u>老化に伴うところとからだの変化と生活</u> 筋、骨、関節の機能の変化	2
21	<u>老化に伴うところとからだの変化と生活</u> 泌尿器・生殖機能の変化	2
22	<u>老化に伴うところとからだの変化と生活</u> 体温維持機能の変化	2
23	<u>老化に伴うところとからだの変化と生活</u> 老化に伴う認知機能の変化	2

24	<u>老化に伴うこころとからだの変化と生活</u>	高齢者の症状・疾患の特徴	2
25	<u>老化に伴うこころとからだの変化と生活</u>	高齢者に多い症状・訴えとその留意点	2
26	<u>老化に伴うこころとからだの変化と生活</u>	高齢者に多い病気とその留意点	2
27	<u>老化に伴うこころとからだの変化と生活</u>	高齢者に多い病気とその留意点	2
28	<u>老化に伴うこころとからだの変化と生活</u>	高齢者に多い病気とその留意点	2
29	<u>老化に伴うこころとからだの変化と生活</u>	保健医療職との連携	2
30	修了試験後期		2

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準など) 出席状況及び試験結果による評価

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版 第12巻「発達と老化の理解」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学科名	介護福祉科		専門課程	教育・社会福祉専門課程			
科目名	(認知症の理解) 認知症の理解		授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習	
授業概要	認知症に関する基礎知識さまざまな病気の原因や特徴・障害について学習する。						
担当講師	氏名	吉崎 留美子		<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
実務経験	看護師として、脳外科の病院に勤務。認知症に関する研修会などを修了しており、それらを活かした講義を行う。						
時間数	30 時間	単位数	2 単位	学習時期	学年	1 年生	期 前期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択	
到達目標	認知症に関するさまざまな病気の原因や特徴・障害について区別ができる。						
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 						
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターによる講義を中心とし、視覚的効果の高い授業を行う。 ・教科書と資料を使用しての授業を行う。 						

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	認知症を取り巻く状況 認知症の歴史	2
2	認知症を取り巻く状況 認知症の理念	2
3	認知症を取り巻く状況 認知症高齢者の現状と今後	2
4	認知症を取り巻く状況 認知症に関する行政の方針と施策	2
5	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 認知症による障害（記憶障害）	2
6	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 （見当識障害）	2
7	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 （失語、失行、失認、その他）	2
8	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 認知症に間違えられやすい 症状（うつ病）	2
9	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 （せん妄）	2
10	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 認知症の原因となる主な病気の 症状の特徴（アルツハイマー・脳血管性）	2
11	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 （レビー小体病・ピック病）	2
12	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 （クロイツフェルトヤコブ病他）	2
13	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 （若年性認知症）	2
14	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解：検査・治療の実際	2
15	試験	2

成績評価の方法・基準

((試験やレポートの評価基準など)
試験の結果、出席状況などによる評価

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版
第13巻 「認知症の理解」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程					
科 目 名	(認知症の理解) 認知症の介護	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習			
授業概要	認知症（若年性含む）の人やその家族に対する関わりについて考える。認知症が及ぼす生活や社会への影響について現状や課題を明らかにし協力者としての姿勢やありかたを学んでいく。							
担当講師	氏名 松本 安広	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員					
実務経験	介護老人保健施設での経験、介護福祉士会での活動を踏まえ、実務経験を活かした講義を行う。							
時 間 数	30 時間	単位数	2 単位	学習時期	学年	1 年生	期 後期	
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択		
到達目標	認知症の人に合った介護の方法を考えることができる。							
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 							
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターによる講義を中心とし、視覚的効果の高い授業を行う。 ・教科書と資料を使用しての授業を行う。 							

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア <u>認知症の人の生活、家族や社会との</u> かかわり	2
2	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア <u>認知症ケアの理念と視点</u>	2
3	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア <u>認知症の人の視点から見えるもの</u>	2
4	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア <u>パーソンセンタードケア</u>	2
5	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア <u>パーソンセンタードケア</u>	2
6	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア <u>アセスメント</u>	2
7	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア <u>アセスメント</u>	2
8	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア <u>コミュニケーション</u>	2
9	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア <u>食事、排泄、入浴、清潔保持、休息</u> と睡眠 <u>活動 生きがい</u>	2
10	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア <u>ユマニチュード バリデーショ</u> <u>ン</u> 回想法	2
11	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア <u>認知症の人の終末期 医療と介護</u>	2
12	<u>家族への支援</u> 家族 環境づくり	2
13	<u>連携と協働</u> 介護福祉職 介護者支援	2
14	<u>連携と協働</u> 認知症の人の地域生活支援	2
15	修了試験	2

成績評価の方法・基準
((試験やレポートの評価など) 試験の結果、出席状況などによる学習参加の様子評価

使用教材・参考文献
中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版 第13巻「認知症の理解」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科		専門課程	教育・社会福祉専門課程					
科 目 名	障害の理解		授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習			
授業概要	障害（身体・精神障害・知的障害）の形態に応じた具体的な介護技術や知識、各種福祉用具の理解と介助方法の習得、及び保健医療福祉関係者との連携の必要性を理解する。 居宅での介護の理解と家族への援助、関係者との連携の必要を理解する。								
担当講師	氏名	吉崎 留美子・奥永 麻美		<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員				
実務経験	奥永は介護福祉士としてグループホーム、病院、障害者施設に勤務した経験がある。吉崎は看護師で病院に勤務している。それぞれの現場経験をもとに講義する								
時間数	60 時間	単位数	4 単位	学習時期	学年	1 年生	期	後期	後期
						2 年生		前後期	
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択			
到達目標	さまざまな障害についての基礎知識を習得する。 障害のある人の心理的側面に注目しながら、適切な技術の提供を考えることができる。								
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 								
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターによる講義を中心とし、視覚的効果の高い授業を行う。 ・教科書と資料を使用しての授業を行う。・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。 								

回数	授業内容	時間数
1	障害の基礎的理解 障害の概念・障害者福祉の基本理念・ICF	2
2	障害の基礎的理解 障害者の法的定義	2
3	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 肢体不自由（運動機能障害）のある人の医学的理解、運動機能と心理的影響	2
4	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 肢体不自由 脳性麻痺	2
5	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 肢体不自由 脊髄損傷	2
6	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 肢体不自由 脳血管疾患	2
7	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 肢体不自由 高次脳機能障害のある人	2
8	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 パーキンソン病	2
9	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 肢体不自由・介護における留意点	2
10	試験	2
11	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 視覚障害の理解、介護（移動）	2
12	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 視覚障害者の介護 歩行移動	2
13	内部障害について	2
14	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 内部障害「心臓機能障害」のある人 疾患・心機能の理解と生活の支援	2
15	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 内部障害「腎臓機能障害」	2
16	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 内部障害「呼吸機能障害」	2
17	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 内部障害「膀胱・直腸機能障害」	2
18	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 内部障害「ヒト免疫不全ウイルスに	2

	よる免疫機能障害」	
19	<u>障害の医学的・心理的側面の基礎的理解</u> 内部障害「肝臓機能障害」	2
20	内部障害まとめ	2
21	<u>障害の医学的・心理的側面の基礎的理解</u> 難病 制度 疾患の特徴	2
22	<u>障害の医学的・心理的側面の基礎的理解</u> 難病 疾患の特徴と支援	2
23	<u>障害の医学的・心理的側面の基礎的理解</u> 精神障害 医学的理解と支援制度・ かかわりと連携	2
24	<u>障害の医学的・心理的側面の基礎的理解</u> 発達障害 医学的理解と生活理解・ 支援制度	2
25	<u>障害の医学的・心理的側面の基礎的理解</u> 知的障害 医学的理解と支援制度・ 生活の充実	2
26	<u>障害の医学的・心理的側面の基礎的理解</u> 重症心身障害のある人 生活の特性 と医療支援	2
27	<u>障害の医学的・心理的側面の基礎的理解</u> 重症心身障害のある人 生活の特性 と医療支援	2
28	<u>連携と協働・家族への支援</u> サポート体制・福祉用具・社会活動	2
29	<u>連携と協働・家族への支援</u> サポート体制・福祉用具・社会活動	2
30	修了試験	2

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準等)
試験の結果、出席状況などによる評価

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版
第8巻 「生活支援技術Ⅲ」
第14巻 「障害の理解」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	精神保健	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	指定教科書の内容を基に、家庭・学校・職場・高齢者・青少年等幅広い分野における精神保健について学ぶ。				
担当講師	氏名 桂 哲、秋吉 牧子	<input type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
実務経験					
時 間 数	30 時間	単位数	2 単位	学習時期	学年 2 年生 期 後期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	○精神保健についての基礎知識が身につく。 ○精神障害福祉について理解し対応方法についても理解できる。				
準備学習の内容	・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする				
授業の進め方	・資料・板書による講義を中心とする。 ・プロジェクターを用いて視覚的効果の高い授業を行う。				

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	精神保健とは 精神保健福祉対策の概要	2
2	ライフサイクルと健康	2
3	パーソナリティと適応	2
4	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 精神障害の基礎知識	2
5	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 人格障害の分類	2
6	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 心理社会的ストレスの理解	2
7	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 各種の精神疾患について	2
8	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 思考障害の理解	2
9	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 気分障害の理解	2
10	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 躁状態とうつ状態について	2
11	障害の医学的・心理的側面の基礎的理解 自律神経失調症の症状について	2
12	連携と協働 精神保健福祉対策について（市町村・保健所の業務）	2
13	連携と協働・家族への支援 認知症と精神保健	2
14	連携と協働・家族への支援 精神保健福祉対策について（精神保健福祉センターの業務）	2
15	修了試験	2

成績評価の方法・基準 （試験やレポートの評価基準等） 試験の結果、出席状況などによる評価

使用教材・参考文献 中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版 第8巻 「生活支援技術Ⅲ」 第14巻 「障害の理解」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程		
科 目 名	こころとからだのしくみ	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習
授業概要	身体構造や疾病、生活環境などについての基礎知識を中心に、尊厳を守り自立に向けた介護技術について学ぶ。				
担当講師	氏名 豊福 睦子・立川 百合恵	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
実務経験	看護師として、病院勤務経験がある。また豊福は介護施設での勤務経験もある。看護の知識・現場経験の知識をもとに講義を行う。				
時間数	90 時間	単位数	6 単位	学習時期	学年 1 年生 期 前・後期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	○人体のしくみについての基礎知識が身につく、共通言語で他職種と連携ができる。 ○自立支援やその人の可能性を引き出す介護を考え、実践ができる。				
準備学習の内容	・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする				
授業の進め方	・プロジェクターによる講義を中心とし、視覚的効果の高い授業を行う。 ・教科書と資料を使用しての授業を行う。				

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1	健康とは	2
2	<u>からだのしくみの理解</u> 「人間のからだの成り立ち」	2
3	<u>こころのしくみの理解</u> 「人間の欲求と自己概念」	2
4	<u>こころのしくみの理解</u> 「学習・記憶・思考」	2
5	<u>こころのしくみの理解</u> 「感情・認知・適応」	2
6	<u>こころのしくみの理解</u> 「感情・認知・適応」	2
7	<u>からだのしくみの理解</u> 「恒常性」	2
8	<u>からだのしくみの理解</u> 「脳・神経」	2
9	<u>からだのしくみの理解</u> 「脳・神経」	2
10	<u>からだのしくみの理解</u> 「骨・筋肉」	2
11	<u>からだのしくみの理解</u> 「骨・筋肉」	2
12	<u>からだのしくみの理解</u> 「感覚器」	2
13	<u>からだのしくみの理解</u> 「感覚器」	2
14	<u>からだのしくみの理解</u> 「呼吸器・循環器」	2
15	<u>からだのしくみの理解</u> 「呼吸器・循環器」	2
16	<u>からだのしくみの理解</u> 「消化器」	2
17	<u>からだのしくみの理解</u> 「消化器」	2
18	<u>からだのしくみの理解</u> 「泌尿器・生殖器」	2
19	<u>からだのしくみの理解</u> 「泌尿器・生殖器」	2
20	<u>中間試験</u>	2
21	<u>身支度に関するこころとからだのしくみ</u>	2
22	<u>身支度に関するこころとからだのしくみ</u>	2
23	<u>移動に関連したこころとからだのしくみ</u>	2
24	<u>移動に関連したこころとからだのしくみ</u>	2
25	<u>移動に関連したこころとからだのしくみ</u>	2
26	<u>移動に関連したこころとからだのしくみ</u>	2

27	<u>移動に関連したところとからだのしくみ</u>	2
28	<u>食事に関連したところとからだのしくみ</u>	2
29	<u>食事に関連したところとからだのしくみ</u>	2
30	<u>食事に関連したところとからだのしくみ</u>	2
31	<u>入浴に関連したところとからだのしくみ</u>	2
32	<u>入浴に関連したところとからだのしくみ</u>	2
33	<u>入浴に関連したところとからだのしくみ</u>	2
34	<u>清潔に関連したところとからだのしくみ</u>	2
35	<u>清潔に関連したところとからだのしくみ</u>	2
36	<u>清潔に関連したところとからだのしくみ</u>	2
37	<u>排泄に関連したところとからだのしくみ</u>	2
38	<u>排泄に関連したところとからだのしくみ</u>	2
39	<u>排泄に関連したところとからだのしくみ</u>	2
40	<u>排泄に関連したところとからだのしくみ</u>	2
41	<u>休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ</u>	2
42	<u>休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ</u>	2
43	<u>人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ</u>	2
44	<u>人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ</u>	2
45	試験	2

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準等)

出席状況と試験結果

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版

第11巻 「ところとからだのしくみ」

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程			
科 目 名	医療的ケア	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習	
授業概要	安全・感染・連携の視点を学ぶ。医療的ケア支援対象者の身体状況に配慮、負担を最小限としたケア。 医療行為である喀痰吸引や経管栄養を実施するために必要な実施手順・手技・安楽への配慮を学ぶ。					
担当講師	氏名	立川百合恵	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
実務経験	看護師で呼吸器内科等での病院勤務の経験がある。医療的ケア教員講習会修了しており、知識・技術の指導を行う。					
時間数	86 時間	単位数	5 単位	学習時期	学年	1 年生 期 後期 2 年生 前・後期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 ・利用者の状態に応じた自身の行動（体位調整、状態報告）をアセスメントできる。 ・実施にともなうリスクを知り、同時に実施前後の観察によって身体に与える影響を捉える視点を持つ。 					
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 					
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターによる講義を中心とし、実物の提示など視覚的効果の高い授業を行う。 ・教科書と資料を使用しての授業を行う。 					

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	<u>医療的ケア実施の基礎</u> 人間と社会	2
2	<u>医療的ケア実施の基礎</u> 保健医療制度とチーム医療	2
3	<u>医療的ケア実施の基礎</u> 保健医療制度とチーム医療	2
4	<u>医療的ケア実施の基礎</u> 安全な療養生活	2
5	<u>医療的ケア実施の基礎</u> 安全な療養生活	2
6	<u>医療的ケア実施の基礎</u> 安全な療養生活	2
7	<u>医療的ケア実施の基礎</u> 清潔保持と感染予防	2
8	<u>医療的ケア実施の基礎</u> 清潔保持と感染予防	2
9	<u>医療的ケア実施の基礎</u> 清潔保持と感染予防	2
10	<u>医療的ケア実施の基礎</u> 清潔保持と感染予防	2
11	<u>医療的ケア実施の基礎</u> 健康状態の把握	2
12	<u>医療的ケア実施の基礎</u> 健康状態の把握	2
13	修了試験	2
14	<u>喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）</u> 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	2
15	<u>喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）</u> 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	2
16	<u>喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）</u> 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	2
17	<u>喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）</u> 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	2
18	<u>喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）</u> 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	2
19	<u>喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）</u> 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	2
20	<u>喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）</u> 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	2

21	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	2
22	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	2
23	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	2
24	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	2
25	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順） 手順解説	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施	2
26	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順） 手順解説	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施	2
27	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順） 手順解説	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施	2
28	喀痰吸引（基礎的知識・実施手順） 手順解説	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施	2
29	修了試験		2
30	経管栄養（基礎的知識・実施手順）	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	2
31	経管栄養（基礎的知識・実施手順）	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	2
32	経管栄養（基礎的知識・実施手順）	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	2
33	経管栄養（基礎的知識・実施手順）	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	2
34	経管栄養（基礎的知識・実施手順）	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	2
35	経管栄養（基礎的知識・実施手順）	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	2
36	経管栄養（基礎的知識・実施手順）	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	2
37	経管栄養（基礎的知識・実施手順）	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	2
38	経管栄養（基礎的知識・実施手順）	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	2
39	経管栄養（基礎的知識・実施手順） 手順解説	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施	2
40	経管栄養（基礎的知識・実施手順） 手順解説	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施	2
41	経管栄養（基礎的知識・実施手順） 手順解説	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施	2
42	経管栄養（基礎的知識・実施手順） 手順解説	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施	2
43	修了試験		2

成績評価の方法・基準

確認テストによる評価

確認テスト合格者は「喀痰吸引」「経管栄養」「救急蘇生法」の演習に進む

使用教材・参考文献

中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版
第15巻 医療的ケア

〔備考〕

医療的ケアの50時間以上と設定されている項目（講義）については、90分に換算する。
講義は40コマ（+試験3コマ）実施する。

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科		専門課程	教育・社会福祉専門課程					
科 目 名	医療的ケア演習		授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 演習	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習			
授業概要	安全・感染・連携の視点を学ぶ。医療的ケア支援対象者の身体状況に配慮、負担を最小限としたケア。 医療行為である喀痰吸引や経管栄養を実施するために必要な実施手順・手技・安楽への配慮を学ぶ。								
担当講師	氏名	立川百合恵 荒木美和 川内志津子 黒田美穂 豊福睦子 山口幸子 吉崎留美子	<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験を有する教員					
実務経験	全員看護師資格を有し、立川・川内・山口・吉崎は病院勤務の経験、荒木・黒田・豊福は病院、介護施設での勤務経験がある。かつ医療的ケア教員講習（川内のみ痰の吸引等の研修事業における指導者講習会）を修了しており、指導要件を満たしている。現場での経験をもとに知識・技術の指導を行う。								
時間数	58 時間	単位数	3 単位	学習時期	学年	1 年生	期	後期	後期
						2 年生		前・後期	
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 ・利用者の状態に応じた自身の行動（体位調整、状態報告）をアセスメントできる。 ・実施にともなうリスクを知り、同時に実施前後の観察によって身体に与える影響を捉える視点を持つ。 								
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 								
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の指示に従い、模型により演習を行う。 ・数名で一組になり、相互に演習を行う。 								

授業進行計画表		
回数	授業内容	時間数
1～4	<u>演習</u> 救急蘇生法、バイタルサイン測定	8
5～9	<u>演習</u> 口腔内吸引（5回以上）	10
10～13	<u>演習</u> 鼻腔内吸引（5回以上）	8
14～17	<u>演習</u> 気管カニューレ内部の喀痰吸引（5回以上）	8
18～23	<u>演習</u> 胃ろう又は腸ろうによる経管栄養（5回以上）	12
24～29	<u>演習</u> 経鼻経管栄養（5回以上）	12
※演習回数による単位取得 40時間		

成績評価の方法・基準
医療的ケア演習評価表による評価 「喀痰吸引」「経管栄養」「救急蘇生法」の各実技審査において合格（5回目以上が評価表の全項目がAの評価）を取得できた者は、科目履修として認める（医療的ケア基本研修修了）

使用教材・参考文献
中央法規 最新・介護福祉士養成講座 第2版 第15巻 医療的ケア

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学 科 名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程						
科 目 名	就職指導	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習				
授業概要	就職試験を受験するための準備を行う。(一般教養試験・作文試験・面接試験対策)演習を交えながらビジネスマナーを習得するための学習を行う。								
担当講師	氏名	松尾 広宣・立川 百合恵 菅沼 真弓・松本 安広	<input type="checkbox"/>	実務経験を有する教員					
実務経験									
時 間 数	60 時間	単位数	4 単位	学習時期	学年	1 年生	期	後期	後期 前後期
科目区分	<input type="checkbox"/> 専門	<input checked="" type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択			
到達目標	TPOに応じた言葉づかいと行動をとることができる。 社会人として必要な一般常識とビジネスマナーが理解できる。								
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスや教員の予告で事前に確認し授業内容の理解をする ・教材に目を通し予習をする 								
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターや板書による講義を中心とし、視覚的効果の高い授業を行う。 ・履歴書の記載や適性検査・試験問題・模擬面接による演習を行う。 								

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	働く意義と目的、自己分析、人生設計、自分の将来像	2
2	長崎県社会福祉協議会担当者からの就職支援講義	2
3～4	長崎県福祉の仕事就職フェア参加（長崎県社会福祉協議会主催）（1年次）	4
5	ボランティア活動について、夏休みの就職活動について	2
6	ビジネスマナー	2
7	就職活動の進め方	2
8	履歴書作成方法の学習	2
9～10	介護現場の理解（高齢者・障害児・者、入所・在宅等）：施設見学	4
11	一般常識問題演習の実施、進路希望調査	2
12	1年次の振り返り、履歴書の作成実習	2
13	就職希望について個人面談、作文指導「私の介護観」	2
14	就職活動に必要な書類、手続き等について、ハローワークの仕組み	2
15	求人票の見方と資料請求方法	2
16	長崎県社会福祉協議会担当者からの就職支援講義	2
17～18	長崎県福祉の仕事就職フェア参加（長崎県社会福祉協議会主催）（2年次）	4
19～20	ビジネス文書（種類と様式）適性検査について（クレペリン検査・能力検査など）電話対応の基礎（かけ方受け方）・演習敬語の基礎 尊敬語・謙譲語	4
21	就職試験問題過去出題問題の実施・分析	2
22～23	施設見学	4
24～25	キャリアコンサルティング	4
26	作文指導 「仕事をするうえでの心構え」 内定後の手続き、お礼状、卒業までの過ごし方について	2
27～28	模擬面接①	4
29～30	模擬面接②	4

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準等)

レポート、出席状況、就職活動状況による

使用教材・参考文献

一般常識 チェック&マスター

実教出版 マイロード21

就職指導マニュアル

授業計画書（シラバス）

長崎医療こども専門学校

学科名	介護福祉科	専門課程	教育・社会福祉専門課程			
科目名	国家試験対策	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 演習	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> 実習	
授業概要	国家試験合格に向け、多くの問題にあたり、不得意科目への対策や習得した学習内容の確認を行う。					
担当講師	氏名	立川 百合恵・菅沼 真弓 松本 安広	<input type="checkbox"/>	実務経験を有する教員		
実務経験						
時間数	226 時間	単位数	15 単位	学習時期	学年	1 年生 期 後期 2 年生 前後期
科目区分	<input checked="" type="checkbox"/> 専門	<input type="checkbox"/> 一般	履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 自由選択
到達目標	介護福祉士国家試験に合格できる					
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去問題により国家試験の傾向を知る。 ・ 国家試験に出題される科目の復習をする。 					
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去問題及び模擬試験問題の演習、解答、解説。 					

授業進行計画表

回数	授業内容	時間数
1	国家試験概要説明	2
2	モノグサ アプリについての説明	2
3～4	令和6年度1月実施の国家試験を解いてみよう午前問題	4
5～6	令和6年度1月実施の国家試験を解いてみよう午後問題	4
7	令和6年度1月実施の国家試験 解説による勉強	2
8～9	令和7年度1月実施の国家試験を解いてみよう午前問題	4
10～11	令和7年度1月実施の国家試験を解いてみよう午後問題	4
12～19	令和7年度1月実施の国家試験 解説による勉強	16
20	グループ分け、今後の方向性の打ち合わせ	2
21～22	令和7年度中央法規模擬試験問題を解いてみよう午前問題	4
23～24	令和7年度中央法規模擬試験問題を解いてみよう午後問題	4
25～32	令和7年度中央法規模擬試験問題 解説による勉強	16
33	グループワーク	2
34～35	模擬試験(過去問)午前問題	4
36～37	模擬試験(過去問)午後問題	4
38～39	模擬試験(過去問) 解説	4
40	領域Ⅰ人間と社会 過去問 人間の尊厳と自立	2
41	領域Ⅰ人間と社会 過去問 人間とコミュニケーション	2
42	領域Ⅰ人間と社会 過去問 社会の理解	2
43～44	領域Ⅱ介護 過去問 介護の基本	4
45～46	領域Ⅱ介護 過去問 コミュニケーション技術	4
47～48	領域Ⅱ介護 過去問 介護過程	4
49～50	領域Ⅱ介護 過去問 生活支援技術	4
51～52	領域Ⅲこころとからだのしくみ 過去問 発達と老化の理解	4
53～54	領域Ⅲこころとからだのしくみ 過去問 認知症の理解	4

55～56	領域Ⅲ ころとからだのしくみ 過去問 障害の理解	4
57～58	領域Ⅲ ころとからだのしくみ 過去問 ころとからだのしくみ	4
59～60	領域Ⅳ 医療的ケア 過去問	4
61～62	総合問題 過去問	4
63～64	令和7年度中央法規模擬試験問題を解いてみよう 午前問題	4
65～66	令和7年度中央法規模擬試験問題を解いてみよう 午後問題	4
67～68	令和7年度中央法規模擬試験問題 解説による勉強	4
69～71	高齢者・障害者に多い疾患の理解	6
72～73	介護福祉士国家試験 受験の手引き記載 介護福祉士登録について	4
74	介護福祉士国家試験 受験の準備 仕上げ	2
75～76	国試過去問 自己学習	4
77～79	模擬試験	6
80～81	模擬試験・解説	4
82	不得意分野を自己学習	2
83～86	学力評価試験受験	8
87～89	学力評価試験解答・解説	6
90～93	中央法規出版模擬試験 受験	8
94～96	中央法規出版模擬試験解答・解説	6
97	自己学習	2
98～99	模擬試験	4
100～101	模擬試験解説・自己学習	4
102～104	要点確認 一問一答等	6
105～106	国試に向けての自己課題学習	4
107	国家試験受験時の注意事項等	2
108～111	令和8年度国家試験 受験	8
112～113	令和8年度国家試験 自己採点	4

成績評価の方法・基準

(試験やレポートの評価基準等)

学習態度 模擬試験結果 国家試験合格

使用教材・参考文献

クエスチョンバンク 介護福祉士 国家試験問題解説 ・メジカルフレンド 介護福祉士対策ドリル

中央法規 見て覚える国試ナビ 書いて覚える合格ドリル 介護福祉士国家試験模擬問題集
介護福祉士頻出問題要点チェック 介護福祉士国家試験対策速習1問1答

誠美堂出版 介護福祉士問題集

ユーキャンユーキャンの介護福祉士 過去3年問題集 介護福祉士実力アップ予想模試 介護福祉士1問1答&要点まとめ

モノグサ アプリ他